

5 まとめ

(1) 評価結果のまとめと今後に向けて

今年度は、第3次鎌倉市総合計画第3期基本計画後期実施計画の初年度である平成29年度に行った事業を対象に、行政評価を実施しました。

平成30年度の行政評価の新たな取組として、行政評価シートに第3期基本計画で掲げた「目標とすべきまちの姿」に対して設定した目標との関連性及び関連性を踏まえた指標について、記載する項目を設けるとともに、内部評価を実施する前に、事業を所管する部長と市民評価委員会との間で、目標と「目標とすべきまちの姿」の関連性及び指標について意見交換を実施しました。

鎌倉市の行政評価においては、目標とその達成度を測る指標の設定は、市民評価委員会からの指摘や、庁内でも課題として認識しており、今年度、市民評価委員会との意見交換により、多少の改善が見られたものの、依然として改善すべき事項になっています。鎌倉市が設定した目標に対し、どのように取り組み、どの程度進んだのか、市民の皆様の税金を使用し、事業を実施していることから、市民の皆様への説明責任が求められます。

このように、これらの課題の改善に向け、以下に掲げる対応を検討していきたいと考えています。

- * 目標管理としての実効性をさらに高めるため、指標等の設定率の向上及び「目標とすべきまちの姿」につながる指標の設定を行います。
- * 次年度の評価に向け、市民評価委員会の意見も踏まえ、評価方法や評価シートのさらなる改善に向けた検討を行います。
- * 職員に対する行政評価研修会の開催等を検討し、職員1人ひとりが評価の目的を再確認するとともに、施策の方針等における進行管理を行う視点を養います。研修実施の際には、具体的な記載例を活用するなど、職員が理解しやすくスキルアップが図れる内容にしていきます。

(2) 評価結果の活用

ア 総合計画基本計画の進行管理

企画計画課においては、評価結果を基本計画における施策の方針等や実施事業の進行管理に活用し、第3期基本計画の着実な進捗を図ります。

イ 目標管理に向けたマネジメントサイクルの確立

各部、各課等においては、行政評価に継続して取り組むことによって、PDCAサイクルを念頭においた事業実施や目標管理に活用するとともに、決算及び包括予算制度における予算編成などの資料として活用し、施策の方針等における目標達成を効率的・効果的に行うための事業構築への反映に努めます。

ウ 職員意識の向上

PDCAサイクルを確立することにより、職員に経営感覚を定着させます。さらに、職員の行政評価に対する理解を深めるため、職員研修の内容を充実するなど、引き続き行政評価に対する職員の意識の向上を図ります。

また、個々の職員がこの制度を的確に運用することにより、最終的な成果である市民サービスの向上に寄与できるよう、意識の向上を図ります。

(3) 評価結果の公表

行政評価の結果（本報告書含む）については、市ホームページで公表します。

また、本評価結果報告書については、行政資料コーナー等での閲覧により、広く市民に公表します。

これらを通じて多くの方に評価結果の周知を図ります。